



イマジン
ロータリー

国際ロータリー第2610地区
南砺ロータリークラブ

クラブ会報 なんと



NO. 2569

URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail office@nanto-rc.jp

例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/富山銀行福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ぶくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

写真撮影

写真同好会

谷村修基会員



「農園きむらひの梨」

第2630回例会 令和4年9月27日(火)曇り22℃

- ◆点 鐘 12:30 古瀬喜八郎会長
- ◆司 会 谷村修基SAA
- ◆ソング 「我等の生業」
- ◆会長の時間 古瀬喜八郎会長



クラブHPへ

お疲れ様です。静岡の線状降水帯の豪雨災害が放送されていましたが温泉旅館のあちこちに土砂が流れ込んで、とても先の事は考えられないと言っておられました。又、23日千葉の小学一年生の女の子が行方がわからなくなって、地域住民大勢の方で探しているという、早く見つければいいなと思っております。

本日は14時から安倍晋三元首相の国葬儀ということで、東京はかなり規制線が入っています。一般の献花の台に、大勢最後のお別れの方の列がもう始まっていました。賛否両論がありますが、世界各国から4500名くらいの葬儀ということです。

それでは、今日の言葉として「厳島神社の大鳥居」について。日本の伝統技術に目を向けてみましょう。日本の神社の入り口には、様々なタイプの鳥居が建てられています。世界遺産となった「厳島神社」の鳥居は海に建つ有名な鳥居です。平清盛か造営したとされ、現代に至るまで数回にわたって建て替えられたとされています。現存しているものは140年以上前に建てられました。

総重量は60トンにも及び高さは60メートルを超えています。主柱となる二本は樹齢500年を超える楠が使われています。東柱が宮崎県から、西柱が香川県からのものであり、そのほかの材料も全国から集められています。

これだけのものが海の中に、しかも砂地に聳え立っていることは、信じられないことではあります。その土台に使われている千本杭と呼ばれる工法は、約30本から100本の松杭を底部分に打ち込むというものです。また、上部に屋根が付いた笠木・島木は箱型になり、その中にはたくさんの石が詰められ安定を保っているようです。

改めて先人の知恵と匠の技に敬意を払いたいものです。

◆幹事報告 石崎和三幹事

- ①例会変更の案内 高岡西、小矢部中、射水、高岡万葉、氷見は10/6・10/20メーク可能
- ②ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会より、希望の風だより受領

◆委員会・同好会報告

砺波ライオンズクラブ・南砺ロータリークラブ合同親睦チャリティーゴルフコンペの開催について 尾山裕和代表幹事
・9/29 トナミロイヤルゴルフ倶楽部にて・懇親会:みや川



統計

- ・全世界ロータリアン総数 1,175,466人 ・クラブ数 36,913クラブ
- ・地区数 520地区(2022-23年度) ・国と地域 200以上 ・RAC会員数 207,597人 ・クラブ数 11,370クラブ ・国と地域 160以上 ・IAC会員数 423,545人 ・クラブ数 18,415クラブ ・国と地域 150以上 (2022年7月18日現在)

★ニコニコボックス 9/27 谷村賢治委員長

- 古瀬君 20日の夜間例会にはありがとうございました。
本田さん卓話宜しくお祈いします。
- 木勢君 今日、ニコボックス委員長、副委員長出張のため、ニコボックスを担当します。
- 荒井君 本田さんの「福光宇佐八幡宮について」とっても楽しみです。
- 本田君 本日、はじめての卓話担当です。皆さんの睡眠の邪魔にならないように頑張ります。よろしくお祈いします。
- 柳 君 稲刈りガンバローと思っていたら朝から雨、さっぱりです。本田さん卓話楽しみです。
- 北島君 欠席が続いていましてすみませんでした。また、よろしくお祈いします。
- 山田清君 稲刈りも残すところ山田錦のみ、一番儲かる米が最後に残っています。(笑)
- 石崎和君 本田さんの卓話楽しみです。又古瀬会長発案のライオンズ・ロータリーのチャリティーゴルフ、このゴルフを足場に、色々出来たら楽しみです。チムドンドンです。今回、お誕生日会を3日間連続で飲みすぎました。ありがとうございました。
- 松村君 本田さんのお宮さんの卓話楽しみです。次は神明宮もお願いします。
- 野村君 本日は、国葬儀。安倍総理には感謝しかありません。ありがとうございました。
- 澤田君 ニューフェース本田君の卓話、楽しみにしております。本田君あつての福光宇佐八幡宮。陰の大黒柱です。今後とも頑張ってください。
- 松本君 安倍前総理の国益の大仕事は、クアットインドを巻き込んだことです! 南無阿弥陀仏
- 谷村修君 まねきさんの新米のお弁当、おいしゅうございました。ごちそう様です。
- 久恵君 本田さん、卓話は緊張せずに思いきって話して下さい。安倍元首相の国葬の記念すべき日に卓話が当たった本田さんは幸せ者です。
- 尾山君 本田さん、福光宇佐八幡宮の卓話を楽しみにしております。
- 船藤君 早退します。

本日のプログラム 10月4日(火) 第2631回例会 卓話

担当 北島芳信会員

◆出席報告 松本敏博委員長

会員数	9月27日出席率	9月13日(未修正)
44 (免除2)	72.72% (欠14)	63.60% (欠16 メーク2)

次回の予定 10月11日(火) 第2632回例会 卓話

担当 松村 壽会員



7月に入会させて頂きました、本田 敏です。いきなり卓話ということで、なんと酷い会だなと思っております。一週間前に武田先生に相談したところ「宇佐八幡宮」の話でもいいんじゃない、といわれました。

きっかけは、近所に半世紀もお世話されていた石崎ひろしさんから「ちょっと手伝ってくれ」と言われ、断れないうちに亡くなられて、何もかも回ってきました。年間30日くらいお宮に浸かっています。なかなか大変です。世話をしているのに何にも知らないの、この機会に勉強しなければと思い、宮司さんに相談して、資料などを見せて頂きましたが、全く解らない言葉や漢字ばかりで本当にむずかしく、そこで止まってしまう今日になってしまいました。

【由緒】

天平18年(746)、天台宗・医王山海王寺を開いた泰澄(たいしょう)大師が、豊前国(大分県)宇佐八幡宮の分霊を奉じて、福満の地に鎮座されたもので、古くから石黒郷の総社として崇敬された。(福光町史 下 189頁)

※天平勝宝2年(750)、大伴家持在任の折に建立という説もある。(町報ふくみつ 福光町の伝説をたずねて88回より)

宇佐八幡宮の御祭神は誉田別命(ほんだわけのみこと)、すなわち応神天皇をお祭している。

御母君・神功皇后が三韓征伐から帰ったのち、筑紫の海岸にて産まれた。当時皇子で、天皇の後継争いで命を狙われていた幼い応神天皇が、『金の鳩』の案内で難を逃れたという伝説が日向地方にあって、神の使いとして鳩をあがめている。(福光町史 下112頁)

福光宇佐八幡宮と『金の鳩』伝説

大伴家持嫡子で右京亮・持定が領主であった延喜2年(921)、この地方に痘瘡(とうそう)が流行し、多くの人々が死んだ。領主も痘瘡にかかり、その病は重く、領内では誠に悲惨な有様であった。

その年の5月15日暁天より「我は宇佐の大神なり。汝、不断よく我を信仰していた。今、病苦にあるが、これを救わん。」という声が聞こえた。人々は奇異な思いで天を仰ぎ見ると、金色の鳩は飛んで来て、一日一夜飛び舞っていた。数日の内に、領主を始め痘瘡にかかっていた人々の病は治ってしまった。そこで一社を建立、宇佐大神を勧請し、多くの神田を寄進した。

領主はその神の護りのお陰で百余歳の長寿を保った。その旨を石面に彫刻し、仙人石と称し社殿に祀ったという。(町報ふくみつ 福光町の伝説をたずねて88回より)

『金の鳩』と御神輿巡行

春季例大祭において、ご神体を載せた御神輿を担いで町内を巡幸する事で、金の鳩が町内を飛び回ったように、地域を清めて五穀豊穰を祈願する…。神輿御巡行は、天明8年(1788)、中絶していたところを再興され、寛政3年(1791)の大火で再び中絶。社殿再建御遷宮を機会に復古されて今日に及んでいる。

古い御神輿は八角形で、純金の金具を施してあったが、文政10年(1827)年の暮れに賊に盗まれた。明治6年(1873)4月、古い神輿を嫁兼へ譲り、京都・吉田神社より今の御神輿を譲り受けた。(町報ふくみつ 福光町の伝説をたずねて88回)それを機に、神輿倉も新築している。(福光のお宮とお寺)

御神輿巡行の本来の隊形は、先払、輪棒を先頭とし、幢幡・獅子(川原町の雄獅子)・稚児衆・剣鉾・武者20人・別当と時代によって人数や順序に多少の変化はあったが騎乗武者は幌や馬印をつけた、ものものしい時代行列の様式を持っていた。(町報ふくみつ 福光町の伝説をたずねて88回)

当初の武者の役割は、明治初期には警察が銃を肩にかけて御神体警護をしていたようである。現在は消防団がその任を行っている。

古来の神輿は仕丁8人、台持ち2人で運ばれたが、明治5年(1872)に京都・吉田神社の御神輿を買い受けてから、仕丁40~50人、台持ち4人の多人数で行われるようになった。御神輿を担う仕丁は、毎年交代で各町内よりの寄進によったが、明治34年(1901)からは25歳と42歳の厄年の男が奉仕する事となり、御神輿担ぎは町民の神聖な義務として受け継がれている。(福光町史 下 327頁)

平成21年(2009)、御神輿巡行が再興されて221年目。厄年の男子が担ぎ始めて108回目の御神輿巡行。

厄年男子が担ぐ様になる前までは、宮(氏子)総代家の不幸で御神輿巡行が中止になる事もあった。厄年男子が巡行に携わる様になってからは、太平洋戦争中の男手が少ない中でも、昭和53(1978)年の福光大火の際も、途切れる事無く、その年の厄年男子の尽力で御神輿巡行を行っている。

ご神体を載せた金色の御神輿を担いで、地に着ける事無く旧町部の全町を巡行して神殿にお戻するという大事な役割を担う事で、自分達の厄を祓わせて頂くというのが主旨である。旧町部をくまなく巡行する事で、金色の鳩伝説を踏襲しているのである。

旧来は、荒町(中仙道)・西町(南町)・川原町・栄町(十三間町)等、細部まで巡行していたが、近年の郊外への住宅地拡大とそれに伴う道路拡幅により、巡行路も変わりつつある。

旧町と他地域の境まで行く(町外には出ない)事、町境ではモドイタをする事、宮総代の家の前を通る事、各町公民館前を通る事等様々な決まり事がある。かつて各町の出入りの際にもモドイタをする事もあった。

色々な決まり事を、その年々の厄年男子が自分たちのやり方でクリアーしながら、御神輿巡行という大役を務める、これを完遂する事で、町の人からは、思慮深い『真の人間』と認められる部分がある。

《モドイタ》

御神輿が境内に入る前に、「モドイタ」といって、今の鳥居と、かつて鳥居のあった本町交差点を行ったり来たりする。その回数で、その年の力自慢を見せて、その年の厄年男子の甲斐性を競う見せ場がある。原則、奇(喜)数である。お宮さんの前から本町までの道路(県道)は、昭和27年までは真中に用水が通っており、「モドイタ」の際は東側の道を通って本堂入り口手前の鳥居まで行き、戻るときは西側を通って行った。かつては本当に力の限り行っていたのだが、近年さまざまな事由から、現在は、夜8時までには本殿に御神体をお戻りする、という事になっている。この8時もコロナに関わっていることで、近年は「モドイタ」も何回と決めさせて頂きました。福光の人にははるごく熱いお祭り、これからも大事にしていきたいと思っております。

お正月には大変たくさんの方がお願いに来られますが、神様はこんなに頼まれて応えられるのかな〜と。お願いも大事ですが、日頃、生かして頂いているだけでもありがたいと感謝しに神社に来て頂ければ、神様もホッとするとおもいます。自分自身もお願い事に来た時よりも、ありがとうございましたと手を合わせたあの方が、心が気持ちよくなっているように思います。

目に見えないものに手を合わせ、素直な気持ちで心をきれいにし帰る場所です。見えないものに手を合わせられる日本人であって良かったと思います。こういう気持ちが世界中にあれば、世界平和に繋がると確信しております。そんな大事なところに僕はいるんだと思うように頑張っていきます。ありがとうございました。

(今回の会報担当・牧千収)

